

巻き込み事故防止

うちわ製作で啓発

県内運送会社の協議会

県内の運送会社などで行く「巻き込み事故対策協議会」（北島町）が、大型貨物車の巻き込み事故防止を呼びかける啓発うちわを作った。協議会が参加する交通安全講習会や商業イベントなどで配る。

うちわの長さは約35センチ。

表面には「左折巻き込み死角ゼロへ」と書き、協議会が普及活動に取り組んでいる人工知能（AI）カメラの性能をイラストや写真で紹介している。裏面では貨物車の巻き込み死傷事故が全国で毎年約600件起きていることに触れ、「事故を防止することは歩行者を守るだけでなく、ドライバーや会社を守ることもつながる」と業界全体に向けたメッセージも載せた。

協議会の事務局を置く同町の食品充填機メーカー「四国化工機」が、環境への配慮から豆腐の製造で廃棄されるおからを混ぜたプラスチック樹脂を開発しており、うちわの材料に使っ

巻き込み事故対策協議会が作った啓発うちわ



た。千個製作し、4月から県内の講習会や企業展示会などで無料配布している。今夏は阿波踊りイベントの会場でも配る予定。

協議会の植田俊介会長（37）＝四国化工機取締役＝は「大型貨物の巻き込みは死亡事故になりやすい。うちわを配って注意喚起できれば」と話している。

（濱岡幸宏）